

市民環境大学OB会 ニュースレター



第29号 2019年11月21日 発行

今年も咲いた石路(ツツブキ)

定例OB会 小平市上下水道館見学会開催！



小平市 ふれあい下水道館
(パンフレットより)

市民環境大学OB会では定例的なフィールドワークとして環境に関する施設見学などを行っています。今回は10月の定例OB会の日、5月の立川国立極地研究所に引き続き、小平市にある“ふれあい下水道館”の見学会を行いました。

下水道館の説明によると、ここは日本で唯一誰でも自由に本物の下水道管の中に入って体験見学ができ、下水道に関する様々な資料の展示などで下水道の役割、水環境の大切さなどを学べるとの事です。

今回の参加者は12名、黒川清流公園での湧水量測定や身近な水環境全国一斉調査への毎年の参加など、水に関しての感度の非常に高いOB会員にとって興味津々での見学会になりました。以下、訪問記を原田さんに寄稿頂きましたので紹介します。またスナップ写真は坂井さんに撮影頂きました。

投稿 「小平市ふれあい下水道館」見聞録

OB会 原田 武司

10月19日、恒例の見学会にはOB会と環境大学受講生を含め12名が参加した。西武線鷹の台駅に集合した一行はこの企画の発案者である佐山氏の案内で玉川上水の散策路を通過して森林浴を体感しながら目的地に向かった。

駅から15分ほどの「小平ふれあい下水道館」はこじんまりした建物であったが地上2階、地下5階の縦長のテーマパークだった。初めに講座室で解説員の方から下水処理場のシステムについての説明があり、ここでは微生物が汚物を分解している映像がリアルタイムで見ることができた。

その後地下5階まで一気に降り、この館の最大の見せ場である直径5メートル程の巨大な下水道管内の見学用デッキに入った。事前に臭いが強いのでマスク持参と聞かされていたが一昨年の北野下水処理場見学で経験済みで顔をしかめる程でもなかった。

当日の水位は通常並みということだったがそれでも足元を轟音を立てて流れる濁流は迫力満点。先日の台風19号が通過したときはこの下水管の8割方が水に覆われ、潜水艦と同様の見学用入口を塞ぐドア上部の覗き窓まで達した濁流が見られたこと。ここでクイズ!! 上流で大きなイベントがある時、水嵩が急増するが何故でしょうか？ 答はトイレの使用回数が増えるからとの説明に全員へウレカ！。



下水道館に向かう一行



下水道を掘る掘進機に興味津々



いよいよ地下5階の体験コーナーへ

以下次ページへ

それから各々が各階の展示場を見学、玉川上水が江戸庶民の飲料水としてばかりではなく灌漑用としても不可欠であったことを再認識するブースもあった。地下3階のフロアでは、すり鉢型に掘り下げた地下の井戸から水をくみ上げる「まいまいす井戸」のレプリカが展示されていた。まいまいとはカタツムリのこと、螺旋状の道を下って水をくみ上げていたところからこの名がついたという。水の乏しかった武蔵野台地に暮らす人の知恵で小平市にも現存していたということ初めて知った。また地下に埋設された上下水道を悩ます漏洩をメンテナンスする福島原発でも応用されたに違いない最新鋭ロボットなどハイテク技術も紹介されていた。

瞬く間に予定の見学時間を過ぎてしまったが、日本で唯一下水管内に入れるというユニークな見学館で、平成2年開設以来、来場者48万人を超えたということも頷ける見所満載で有意義な見学会となった。

黒川清流公園湧水枯渇問題のその後！

OB会 尾添 俊二

黒川清流公園湧水枯渇問題はOB会原田さんからニュースレター第26号で第4回目の黒川公園湧水対策委員会傍聴記を報告頂いた。そこでは有効な対策が出ないまま、市担当者より湧水対策委員会の終了要請がなされ、意見の集約となったとの事であった。しかしその後、現時点で以下の2つの動きがあるので経過報告をしたい。

①日野市東豊田緑地保全地域モニタリング協議会の発足

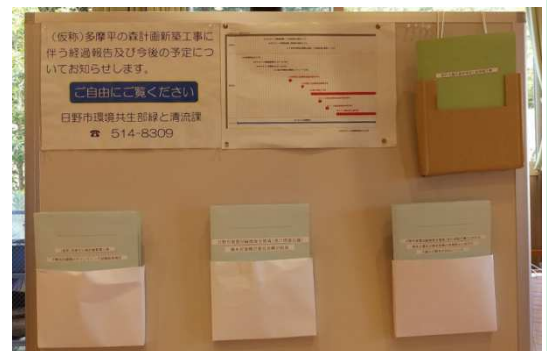
令和元年10月4日制定の資料によれば、この協議会は5名の専門委員で構成され、今後の杭打ち基礎工事の着工前、着工中、着工後の各時点において実施するモニタリング調査（地下水水位、湧水量、水質及び濁度等）の結果等を確認し、専門的知見に基づき、杭打ち基礎工事が湧水及び地下水に与える影響を検証することを目的とするとの事である。

すでに10月25日に第1回のモニタリング管理協議会がカワセミハウスにて実施され、今後建築の進捗に合わせモニターを進めていくとのことなのである。

②4市民団体による工事要望書の提出

上記モニタリング管理協議会とは別に、OB会をはじめとする4つの市民団体（黒川湧水の未来を考える市民の会、浅川流域市民フォーラム、東豊田緑湧会、日野市民環境大学OB会）から施工業者に対し5項目の要望書が令和元年10月25日に提出された。以下にその内容を記す。

1. 地下水のモニタリング調査は、2年間以上実施するとともに、水質・水量に変化が認められた場合には、速やかに原因を究明し、原状回復の対策を講じること。
2. エコパイルの杭本数を計画より少なくするための対策を講じること。
3. 13階建てマンションが3棟横並びになると、ビル風の誘発や野鳥の移動阻害などの影響が避けられないので、基礎杭が不要の低層階マンションへの変更を検討すること。
4. 樹種に富み、緑地帯割合の大きな安らぎの空間の創出を目指すこと。
5. 近隣住民への報告だけではなく、広く日野市民・東京都民の理解が得られるような説明の機会を設けること。



カワセミハウス1Fに設置された黒川公園湧水問題経過説明資料ボード

OB会メンバー 活動イベントニュース

- 市民環境大学の本年度の講義は12月で終了ですが、2009年からで11年の継続となっています。今回の卒業者は11期生となりますが、引き続きOB会への入会をぜひお願いします。
- NO2全都いっせい測定（秋編）に参加予定。
- 黒川清流公園の湧水調査に追加測定が予定されていたパックテスト（COD、NO3）が10月の測定から開始された。

OB会 話題提供と話し合い情報

9月の例会では以下の3項目が話し合われた。

- エシカル消費について（話題提供：中島さん）
- アマゾン熱帯雨林危機について（話題提供：原田さん）
- 今年の台風15号被害について（話題提供：全員）